

2024
新春号
No.94

The logo features the characters '穗濤' (Honami) in a large, bold, black font. The character '穗' (Hon) is on the left, and '濤' (Tama) is on the right. Both characters have a vertical stroke through the middle. Below the characters is a series of horizontal wavy lines representing water. Above the characters, the name 'ほなみ' (Honami) is written in a smaller, regular black font. At the very top, the characters '穗 濤' are written in a small, thin black font. The entire logo is set against a white background.

発行所
早稲田大学藤沢稻門会
事務局
FAX 050-3730-7252
E-mail:w.fujisawa@
 crocus.ocn.ne.jp
発行人 内田 進
穂濤編集委員会



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

(フォトクラブ由山氏撮影)

第21回藤沢稻門会作品展

出展者と来場者も増えて盛大に開催

第21回藤沢稻門会作品展
が11月14日～19日まで藤沢

となり立派な書道のコーナーがで
きました。

工芸部門では会員家族の纖細な
る

第21回藤沢稲門会作品展
が11月14日～19日まで藤沢
市民ギャラリーにて出展者
48名（昨年比6名増）と2

工芸部門では会員家族の纖細な服飾や紹刺しの掛け軸、バツグなど

(昨年比3割増)のご来場がありました。その中には藤沢三田会より会長を含め6名、横浜、鎌倉、茅ヶ崎各稲門会の方々も多数お見え下さいました。

A group of elderly people, mostly women, are posed together for a group photo. They are all smiling and appear to be in a good mood. The setting is indoors, possibly a community center or a similar venue.

なるよう会員各位の積極的な参加をぜひともお願ひ致します。

A group of elderly people, mostly men, are sitting together in a room. They are wearing various types of clothing, including jackets, shirts, and hats. The room has a simple interior with a ceiling light fixture visible.

会員の皆様には、お健やかに新春を迎えたこととお慶び申上げます。

藤沢稲門会 会長



新しい年を迎えて

そして各同好会活動も再開し活動報告及び活気活躍振りが毎月当会HPを飾り活気が戻りました。中でも「藤稲ゴルフ会」は節目の100回記念大会＆パーティーを盛会に実施されました。

幹事会では一昨年から着手したIT化を加速させ、HPの一層の改良、情報発信を継続しております。HP経由での新人獲得に成果が上がり新しい息吹きを感じます。また、会員の利便性にも寄与する年会費徴求システムの改善に着手しました。今後の課題は、若手・女性・世代も問わない、参加し易い明るく楽しい企画をして参ります。

末尾になりましたが、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げると共に、稲門会活動に本年もどうぞご支援・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

にぎやかな顔ぶれとなりました。特に書道部門では、「遊書会」という新しいサークルが生まれ、出点数は昨年の4点から倍増の8点

コロナ禍後4年ぶりに復活された方、作品展参加をきっかけに入会された方、あるいは新たにジャンルに挑戦された方など、

されました。作品数が82点と昨年に比べ10点増えたため展示パネルを4枚増設して会場を設営しました。

第21回藤沢稲門会作品展が11月14日～19日まで藤沢市民ギャラリーにて出展者48名（昨年比6名増）とく サレクルの参加により開催

展者と来場者も増えて盛大に開催



熱心なご来場者



出展者一同

穂 潤



藤稻歌う会のリードで大合唱

今年は「藤稲リコーダーアンサンブル」6名の演奏でスタート。バッハの作品をはじめとした優雅な小品3曲が披露。そして「言葉遊びの会」主催の三瀧信道さんが作詞・作曲された「藤沢稲門会に寄す」を「藤稲歌う会」のリードで参加者全員が合唱した。

2023年 忘年会

12月16日（土）師走とは思えぬ寧ろ暑いくらいのなか、藤沢市民会館で58名の会員が集い開催された。市島徹幹事の司会で定刻14時に開始。同氏は藤沢・鎌倉の中学校・高校を卒業し、早稲田大学野球部のエースとして1990年春季リーグ優勝の立役者である。

があつた。そして皆川龍司顧問の
乾杯の発声の後、宴が始まつた。
頃合いを見て恒例の抽選がスター
ト。参加者が思いを込めて持ち
寄つた賞品を洞江良幹事の進行で
当選番号が読み上げられた。参加
者の6割強の当選確率で、各人番
号札をテーブルに置き、番号が聞
こえると、各テーブルで歓声が上
がつた。

抽選会終了後、大學応援部OB
の野澤大地委員のリードで校歌を
齊唱、大庭信俊行事運営企画委員
長の閉会の辞で会は終了した。

(舛岡 健記／写真 高野尚志)

伝応援総会・新春の集い・地引網・作品展・忘年会等の藤沢稲門会5行事をつつがなく開催でき、催しによつては前年を大きく上回る参加者があつたと報告され、又お礼



野澤大地委員のリードで校歌斎唱

第5回 藤稻懇話会



11月10日午後、藤沢市役

所会議室にて第5回藤稲銀
話会が参加者22名で開催さ

球リーグ戦で18勝をあげた
市島徹氏（平3教育卒）。
（文2年春号）

平成2年春季リーグ戦の話

鶴沼中時代すでに早大野球部エースを夢見た市島氏。鎌倉高では1年から投手でレギュラー、「星

稻田で野球を」との思いは募り、文武に励み早稲田大学の合格がかなう。

入学した昭和62年の秋からベンチ入り。翌63年、監督は石井連蔵氏に代わる。「鬼の連蔵」の指導は一球入魂、精神野球そのものだった。市島氏は2年生で年間5勝したが、3年は春の1勝のみ。調子は下降、秋季リーグ戦最中に怪我もあり練習を休む。その姿勢に監督は激怒、野球をやめろとまで言われたが、夫人から石井監督の言葉を聞き、彼の言ふことを理解する。監督は「君は野球が大好きだ。でも、野球が大好きで、野球をやめるとどうなるか?」と聞かれて、彼の心が動いた。監督は「君は野球が大好きだ。でも、野球が大好きで、野球をやめるとどうなるか?」と聞かれて、彼の心が動いた。

A man in a dark suit and white shirt is standing behind a white podium, gesturing with his hands as he speaks. He has short dark hair and is wearing glasses. The background shows a modern interior with a white wall and a recessed ceiling light. To the right of the speaker, there is a yellow rectangular graphic containing Japanese text.

優勝を熱く語る市島徹氏

師走に盛り上がる！

秦野・伊勢原稻門会の主管で開催

会長。そして、記念演奏として早稲田実業吹奏楽部の指導もする澤智美サクソングループによ

2023年神奈川県支部大会

2023年度神奈川県立部大会が秦野・伊勢原両稲門会の共同主管により、11月4日（土）秦野商工会議所にて開催された。県下14稲門会約170名が参加、藤沢からは8名が参加した。大会は横溝彰秦野会長が掲げる大会旗を先導に田由仁、早稲田大学総長以下来賓・県

愛治早稲田大学総長以下来賓・眞下会長の入場式に続き、横溝彰弘
長の歓迎の言葉、東島正樹・神奈川県支部長（横浜稲門会長）の挨拶
來賓・県下会長紹介と続いた。



アトラクションの応援指導部

二二二

大会旗は相模原・大和両稻門会に引き継がれ、志茂武相模原会長の挨拶後、「都の西北」を声高らかに斉唱し、大須賀頼彦伊勢原最高顧問による閉会の辞で散会した。

（男子団員とチアリーダーの4人）の応援メドレーが行

穂 濤

する。

エースナンバーを背負つての平成2年春季リーグ戦は、市島氏にとって最大の思い出となる。チームは順調で4大学に勝利し、早慶戦が久々の優勝決戦。市島氏もすでに6勝を挙げていた。

迎えた早慶戦、1回戦は先発して勝利、2回戦チームは敗れ、3

回戦に再び先発投手となる。7回

途中、涙の交代となつたものの早稲田の勝利、15季ぶりの優勝と念願の監督胴上げをかなえた。「石井監督との出会いが今の自分を作った、と言つても過言ではない」と市島氏。師弟の思いやりが感じられる素晴らしい講演だった。

(安田 佳裕 記)

大和市の泉の森・ふれあいの森

10月28日（土）第6回藤

稻遊歩会は大和市の泉の森・ふれあいの森を訪ねた。引地川の水源を探る片道2km余りの遊歩行である。

小田急線大和駅に30名の参加者が集まり、11時に出発した。1kmほど歩くと、ふれあいの森に到着。親水広場から引地川の細流にそつて緑陰を散策した。好天に恵まれて皆さんはおしゃべりをしながら元気に歩かれた。

東名高速道路を潜ると泉の森に入る。緑豊かな樹林と水辺の空間が広がる気持ち良い公園である。

広さは42ヘクタールで木々の花々や湿性花園など、四季折々に楽しめる。野鳥や水鳥、昆虫も多く生息しているようだ。大屋根の自然観察センターでひと休みした。ここで泉の森の生態系について展示や標本が見られた。

国道246号を潜ると引地川水

第6回藤稻遊歩会

源である。茫茫とした草木の下に湧水があつて、付近はしつかりとフェンスに護られている。水源を一周して246号下のせせらぎ広場で弁当をひろげた。その後、水車小屋広場前で集合写真を撮り現地解散した。

川澄武雄（昭和38教育）



水車小屋広場前で

第9回女性校友チ懇親会

藤稻史跡巡りの会

遊行寺と藤沢宿の歴史を見る

11月25日（土）、コロナ

でお休みしていた当会が4

年ぶりに開催されました。

2005年に『腰越と藤沢

宿の3寺巡り』で始まつた

当会は、春は鎌倉、秋は主

に藤沢の各所を廻り

今回が30回にな

りますが、遊行寺は初めて。

この日のために敢えて残して

いたとも言えます。

『お久しうぶり』の挨拶を

交わした20名は感応院、諏

訪神社などを廻つて遊行寺

に。一遍上人が片瀬の地蔵院で4ヶ月半布教活動をし、

没後35年を経て遊行寺が創建されたなどの歴史を学び、



遊行寺にて

「お香を聞く会」を開催

小雪次候、11月29日昼下

がり、藤沢湘南アカデミア

内にて「お香を聞く会」が

催されました。参加者18名。

講師に、泉山御留関東支

部長小島如松庵氏、大沢郁

香氏、井上斎香氏をお迎え

しました。

初心者向けの約束事を伺

い、早速、「組香三種」香

りを聞き分ける遊びを始めました。

貴重な香木は馬尾蚊足に細く切

り取り、香炉に焚き入れ、参加者は順番に香りを聞いていきます。

各自で答えを用紙に記入し（配付された用紙は小さく雅びでした）、最後に全員の答えと点数、次第が奉書紙にまとめられます。

用いられた組香の背景には歌や物語があり、香に相まって次々と情景が



雅な体験をしました

浮かんできます。琵琶の音を聞き、香を聞き、白紙の心に自分の声を聞き、雅びな一時を過ごしました。

野村幸男（昭和49商学）

浮かんできます。琵琶の音を聞き、香を聞き、白紙の心に自分の声を聞き、雅びな一時を過ごしました。

佐藤佳子（昭和59教育）

午後は『東海道藤沢宿復元図』を見ながら、将軍の休泊施設である御殿跡や本陣跡、脇本陣跡のか、問屋場跡、蔵を構えた商店跡などを通つて常光寺、永勝寺、白旗神社などを廻り、藤沢本町駅で食後に交流館で『大人が楽しむ紙芝居』の『江ノ島五頭龍伝説』を鑑賞する機会に恵まれ、暫し童心に戻りました。

穂 濤

スポーツ応援俱楽部



決選前の神宮球場スタンドで

去る10月28日、晴れやかな秋空の下、「スポーツ応援俱楽部」活動の一環として華の早慶戦（第1回戦）の応援に行って参りました。勝ち点を奪つた方が優勝という大一番、否が応でも胸が高鳴ります。

神宮球場に到着すると、まずは景気づけにワインとビールで乾杯、応援に備えます。前半は両エースの投手戦。遂に早稲田が5回に先制。卒業以来の「紺碧の空」を先輩方と肩を組んで歌います。その後は応援を糧に1点リードを死守。いよいよ、最終回ここを凌げばの祈り。

祈りも空しく、慶應に逆転されます。「陸の王者」は簡単には勝たせてくれません。三塁側は歓喜に沸き、我々一塁側には重苦しい空気が漂います。しかし、そこで諦めないのが「逆転の早稲田」。



ユニフォームに着替えて

スタンドが一体になって、声を合わせて歌つた「都の西北」は、忘れられないものになりました。試合後、周りの方々と交流できたのも嬉しい思い出となりました。中には、角帽と学ラン姿や夫婦仲良く応援のO.B.O.Gもいたり、早稲田の多様性を垣間見ることができます。最後は、藤沢で、改めて祝盃を挙げ、帰路につきました。

さて、その後、第2・第3戦を落とした早稲田は優勝は叶いませんでしたが、次はラグビー早慶戦100回記念が待っています。ぜひとも雪辱を果たせるよう、引き続き熱く応援をしたいと思います。

林 陽子（平成11文学）

藤稻テニス会

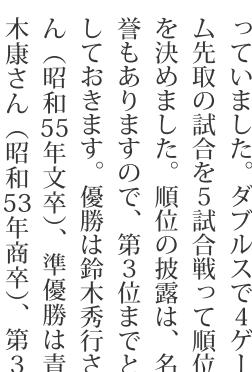
恒例のテニス大会を開催

11月3日の「文化の日」に恒例のテニス大会を青空の下、善行テニスコートで開催いたしました。当初10月9日の「スポーツの日」に予定していたのですが、雨天のため延期になり、この日を迎えた次第です。

大会の参加者は、延期になつた前にケガ人が出たことから12名と少しだけ寂しい人数となりました。それでも、当日は、浅野康雄副会長



サーブ



ボレー

（昭和43年機械卒）の開会の挨拶の後、同副会長指導の準備体操でテニスが大好きな人の集まりですから、試合前は和気あいあいとしていましたが、いざ試合になれば真剣そのものです。サーブ、ボレー、スマッシュとナイフショットが続出で、その都度歓声が上がっていました。ダブルスで4ゲーム先取の試合を5試合戦つて順位を決めました。順位の披露は、名誉もありますので、第3位までと申します。優勝は鈴木秀行さん（昭和55年文卒）、準優勝は青木康さん（昭和53年商卒）、第3

横須賀三浦・藤沢稲門会から10名が参加致しました。新しくなった国立競技場に入るのが初めて、更には、早明戦そのものを観戦する人が初めての人もいて、試合前から興奮のボルテージは上がりっぱなしでした。

平成卒の会は横の広がりが増え、今回は、茅ヶ崎・鎌倉・大和・横須賀三浦・藤沢稲門会から10名が参加致しました。新しくなった国立競技場に入るのが初めて、更には、早明戦そのものを観戦する人が初めての人もいて、試合前から興奮のボルテージは上がりっぱなしでした。

平成卒の会

2023年12月3日(日)

関東大学対抗戦ラグビー早明戦を国立競技場で観戦。

忘年会は新宿に移動し、更に6名増え16名で開催。内2名は、早稲田祭実行委員の現役の学生が参

め、校友の絆を深めながら活動をしてまいりたいと思います。
杉下由輝（平成9教育）



国立競技場でWサイン!!



新宿でWサイン!!

ラグビー早明戦を応援!!

穂 潤

位は徳永竜彦さん（昭和56年機械卒）でした。

秋田稲門会と交流会

今年の箱根駿伝応援にご参加された秋田稲門会・佐野会長より、今秋の10月24日に秋田でも秘境といわれる乳頭温泉郷の黒湯温泉で、4部屋予約できたとのご連絡を頂いたのは2月下旬でした。

この秋田稲門会と藤沢稲門会の懇親交流旅行は過去2度ほど行われており、今回は3回目となります。

3月の幹事会で参加者を募った結果、7名の会員が行くことになり、横浜・相模原の2名を加えた9名で、とても美味しい地元料理と錦秋の紅葉を十分満喫することになります。



ディフェンス

最後に、表彰式を行い、浅野康雄副会長の閉会の挨拶があつて無事終了いたしました。来年こそは優勝できるよう、日頃から精進を重ねたいと思っているところです。

李家健一（昭和50商学）



13名が大集合！

乳頭温泉郷黒湯温泉を訪ねて

ができた旅行でした。

特に、黒湯温泉の当主は秋田大曲稲門会の池田会長で、自ら造つたお酒と山菜料理を堪能させていただき、

翌日は国指定名勝の旧池田氏庭園もご案内いただき、とても

貴重な経験をすることができ最高でした。

この旧池田氏庭園は秋田県大仙市にある東北の三大大地主だった池田家が築いた名園で、その規模の大きさには度肝を抜かれました。

紅葉の黒湯温泉源泉前にて

参加の皆様にはなかなか味わえない感動・感銘の旅となり、秋田稲門会の会長・幹事長には感謝の一言では表せないような素晴らしい交流及び懇親の場となりました。

田中雄一（昭和50政経）

健闘7位！シード権確保！

速報！第100回箱根駅伝 —

3大駅伝3位入賞を目指していたシーズンのようでしたが、出雲全日本駅伝は6位、全日本大学駅伝はシード落ちとやや気落ちしていました所、1月2日は曇り空から雨模様に変わる中5位で箱根に着く大健闘。我々OBも大いに沸きました。

3日復路はお天気も良く藤沢稲門会の応援ブースの前を爽やかにアツと言う間に駆け抜けました。皆涼々しく一生懸命な顔で、青春はいいな〜と思う次第でした。

結果は7位でシード内を守る健闘、随分と楽しめていただきました。

藤沢稲門会のブースにも多くのOBや学生、これから稲門会に入ろうか、という方々が集まりました。

来年は強い早稲田の復活を期待して、また皆で応援しましょ

う！

(山下扶佐子記)
写真洞江 良



8区 競り合う伊福陽太選手



3区 競り合う辻文哉選手

お詫びと訂正

穂濤93号藤稲懇話会・本谷

守氏の記事で「福祉事業所」

あるのは「福祉事業所」の

間違いでした。お詫びして訂

行事予定

■ 定時総会・新春のつどい

日程・2月12日(月)(振替休日)

会場・藤沢市民会館

■ 地引網家族大会

日程・5月12日(日)

二番綱

(11時30分網上げ予定)

会場・鵠沼海岸／堀川網

第1展示ホール

編集後記

編集後記

昨年秋の第21回作品展が盛大に開催されてほっとしている。高齢化に伴う出展数減少が心配されたが、会員や会員家族の皆様のご協力に感謝したい。そして、開催中に心の内面世界の表現作品を通して、相互理解・交流が進んだことは大変意義深いものだった。今年も秋の作品展を目標に皆様と共に頑張りたい。

昨年はまた野球やサッカーなど国際舞台で日本選手が大活躍した。ワクワク・ドキドキの楽しい時間がたまらない。スポーツはいいものだ、連帯感が素晴らしい。

今年も芸術とスポーツを藤沢稲門会の仲間の皆様と共に楽しみましょう。

(中野正一記)

編集委員長 外岡 健
編集委員 高野尚志・中野正一
安田佳裕・山口金雄
山下扶佐子